

JIS L 0888 光及び汗に対する染色堅ろう度試験方法の改正について

2018年3月20日付けで、JIS L 0888「光及び汗に対する染色堅ろう度試験方法」が改正されました。

光及び汗に対する染色堅ろう度試験とは

着用している衣料品がスポーツ等により汗で濡れた場合に、光と汗の複合作用によって色が変わる恐れがないかどうかを調べるために行う試験です。光のみでは色が変わりにくい製品でも、汗との複合作用によって色が変わる場合があるので、スポーツウェア等は注意が必要です。



概要

光及び汗に対する染色堅ろう度試験には、従来法としてA法とB法の方法があり、JIS L 0848に基づく人工汗液にて評価を行っていました。今改正では、より人間の汗の成分に近い人工汗液を用いた『※ATTS人工汗液』が新たに導入される形となります。また、国際規格に規定されている方法としてC法が追加されました。

※ATTSとは繊維製品技術研究会 (Association for Textile Technical Study) の略称です。

従来 JIS

試験の種類	試験に用いる人工汗液	光・汗試験容器使用の有無
A法	JIS L 0848に規定する人工汗液	使用する
B法	JIS L 0848に規定する人工汗液	使用しない



ATTS法の人工汗液法がA法、B法へ追加され、C法 ISO法が追加されています。

変更後 JIS

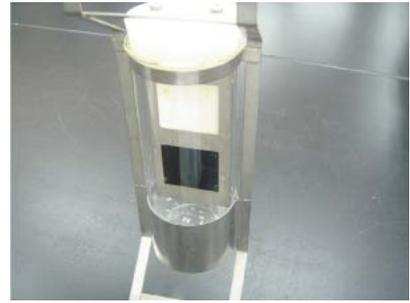
試験の種類	試験に用いる人工汗液	光・汗試験容器使用の有無
A法	JIS L 0848に規定する 人工汗液 (酸性・アルカリ性)	使用する
	JIS L 0888 8.3.1b) 又は8.3.2b) に規定する人工汗液 (ATTS酸性人工汗液、ATTSアルカリ性人工汗液)	
B法	JIS L 0848に規定する 人工汗液 (酸性・アルカリ性)	使用しない
	JIS L 0888 8.3.1b) 又は8.3.2b) に規定する人工汗液 (ATTS酸性人工汗液、ATTSアルカリ性人工汗液)	
C法	ISO 105 -B07 人工汗液 (酸性・アルカリ性)	

詳しくは裏面へ

試験方法

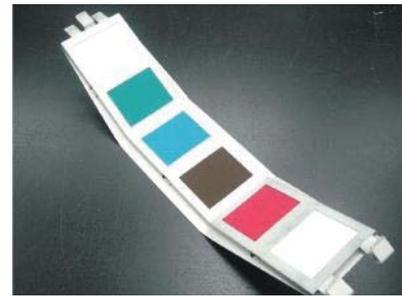
A法

試験片を人工汗液(酸性もしくはアルカリ性)に常温で30分間浸漬した後、試験ホルダに取り付け、汗液を10ml入れたカプセル型の光・汗試験容器に取り付けます。これを耐光試験機にセットし、紫外線カーボンアーク又はキセノンアークによる人工光源を用いて、3級ブルースケールが標準退色するまで光を当てます。露光後、試験片を水洗い、脱水、乾燥し、変退色の程度を判定します。



B法

試験片を人工汗液(酸性もしくはアルカリ性)に常温で30分間浸漬した後、透明のアクリル板に貼り付け、試験ホルダに取り付けます。これを耐光試験機にセットし、紫外線カーボンアーク又はキセノンアークによる人工光源を用いて、3級ブルースケールが標準退色するまで光を当てます(A法で用いた光・汗試験容器は使用しません)。露光後、試験片を水洗い、脱水、乾燥し、変退色の程度を判定します。



試験結果例



判定

A法及びB法の場合、試験片の変退色の判定は、変退色用グレースケールにて判定します。

例1: 光及び汗試験A法(紫外線カーボンアーク灯式耐光試験機)

JIS L 0848	酸性	4級
	アルカリ性	3-4級

例2: 光及び汗試験A法(紫外線カーボンアーク灯式耐光試験機)

ATTS	酸性	2-3級
	アルカリ性	2級

上記の内容についてご不明な点等ございましたら、こちらまでお問い合わせください。

東京事業所
試験課(担当: 桑久保、永榮)

TEL:03-5669-1380 / FAX:03-5669-1381

大阪事業所
試験課(担当: 小出、石田)

TEL:06-6577-0134 / FAX:06-6577-0152